

環境報告書 2012

ルネサス エレクトロニクス株式会社 那珂事業所

ご挨拶

ルネサス エレクトロニクス株式会社は、NECエレクトロニクスとルネサステクノロジーの事業を2010年4月に統合・合併し3年目を迎えた、世界トップシェアの「マイコン」を中核事業とする半導体専門メーカーです。

ルネサス エレクトロニクス 那珂事業所は、200mmウェーハを用いるN2ラインと300mmウェーハを用いるN3ラインの2つの半導体前工程製造ラインを擁した社内有効規模の製造拠点で、最新のプロセス設備、最先端のプロセス技術、クリーン化技術、搬送システムなどを導入し、高集積、高性能のマイコン、システムLSIなどの半導体チップを生産しています。

マイコン、システムLSIは携帯電話、自動車、家電製品、産業用機器など半導体により制御する各種の製品に組み込まれて、今日のユビキタス社会では不可欠な重要な役割を果たしています。

一方、半導体チップの製造には電気エネルギー、水、ガス、薬品などの使用による環境負荷が伴います。

震災後の電力供給の逼迫に対応するため、節電への取り組みを進めるとともに、省資源や排出量削減など、製造時の環境負荷の低減を行い、環境を配慮した省エネルギーに役立つ半導体チップの提供をすることで、社会へ貢献したいと考えています。

那珂事業所
事業所長 宮本 佳幸

那珂事業所概要

沿革

- 1985年 株式会社日立製作所那珂工場の一部門として、LSIチップの製造をスタート。
- 2003年 株式会社日立製作所と三菱電機株式会社の各半導体事業の統合により、株式会社ルネサステクノロジーを設立し、同 那珂事業所(現在のN2ライン)となる。
- 2005年 同一敷地内のトレセンティテクノロジーズ株式会社(現在のN3ライン)を吸収合併し、那珂地区の事業所を統合する。
- 2010年 NECエレクトロニクス株式会社と株式会社ルネサステクノロジーの事業統合、合併に伴い、ルネサス エレクトロニクス株式会社 那珂事業所となる。

所在地:茨城県ひたちなか市堀口751番地

敷地面積:約20万m²

社員数:2,080名(2012年4月現在、関連会社を含む)



報告書内容

- ご挨拶
- 那珂事業所概要
- 基本理念及び環境方針
- 事業内容と環境負荷
- ISO14001環境マネジメントシステム
- 環境負荷低減活動
- 地域、社会への貢献
- 社外表彰履歴
- 事業所案内
- お問い合わせ先

基本理念及び環境方針

ルネサス エレクトロニクス株式会社 那珂事業所

かけがえのない地球を守るため、一人一人が自覚をもって
全員一致協力して、環境にやさしいより良い企業活動を行う

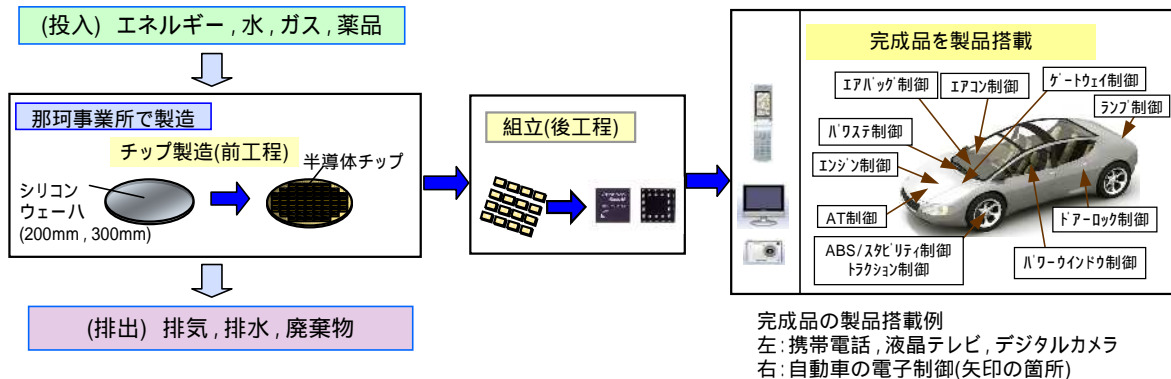
ことを基本理念とし、当事業所の活動、製品及びサービスに係わる環境側面に関して、以下の方針に基づき環境マネジメントを行います。

1. 省エネルギー、省資源などに役立つ高性能・高品質の半導体製品の開発、製造を通して持続可能な社会の実現に貢献します。
2. 環境マネジメントシステムの継続的改善を進め、半導体製造に伴う環境負荷の低減と環境汚染の予防を図ります。
3. 法的要求事項及び同意するその他の要求事項を順守します。
4. 半導体製造における環境パフォーマンス改善のため、以下の項目を重点テーマとして推進します。
 - (1) 生産性向上と資源の有効活用
 - (2) 地球温暖化防止
 - (3) 化学物質管理
 - (4) 廃棄物削減
 - (5) 環境に係わる不具合の未然防止と迅速な対応
5. ステークホルダーとのコミュニケーション及び地域の環境活動への参加を推進します。

事業内容と環境負荷

那珂事業所は、マイコン、システムLSI用のチップを中心に製造しています。チップ製造工程における環境負荷としてエネルギー、水、ガス、薬品などの使用とこれに伴う排気、排水、廃棄物があります。

チップ製造から完成品を製品搭載するまでの流れ



投入 (2011年度)

- ・ エネルギー (電力, A重油, 灯油, LPG, 蒸気) 原油換算10.5万リットル/年
- ・ 使用水量 12,600m³/日
- ・ ガス, 薬品

チップ製造

排出 (2011年度)

- ・ 温室効果ガス排出量(温暖化対策推進法に基づく算定値)
 - エネルギー起因CO₂ 20.0万トン-CO₂/年
 - パーフルオロカーボン 2.5万トン-CO₂/年
 - 六ふっ化硫黄 1.8万トン-CO₂/年
- ・ 排水量 10,400m³/日
- ・ 産業廃棄物最終処分量 3.1トン/年

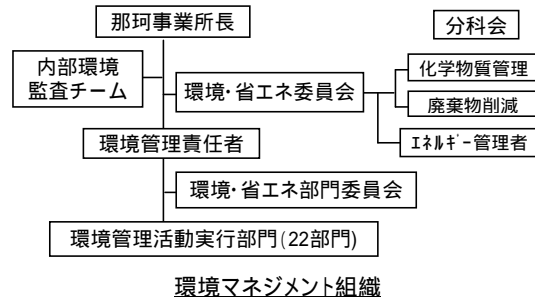
ISO14001環境マネジメントシステム

那珂事業所では、環境管理に国際規格ISO14001を導入し、体系的な環境マネジメントを推進しています。

ISO14001 認証登録状況(2012年6月現在)

- ・ 認証機関: 一般財団法人日本品質保証機構(JQA)^(*)
- ・ 登録番号: JQA-EM6496
- ・ 初回登録 1997年6月
- ・ 最終審査 2012年4月

(*) 2012年3月に 認証機関を 株式会社日本環境認証機構(JACO)から一般財団法人日本品質保証機構(JQA)に変更



環境負荷低減活動

地球温暖化防止

那珂事業所はルネサス エレクトロニクスの主力の生産拠点であり、生産に伴う温室効果ガス排出の原因となるエネルギー使用及びPFCガス使用は負荷が大きくなっています。このため、エネルギー単位の低減（エネルギー使用効率の改善）とPFCガス排出削減を推進しています。

(1) エネルギー単位の^{(*)2}の低減

廃熱の再利用等、エネルギー使用の無駄の排除に努めています。2011年度のエネルギー単位数は、東日本大震災に伴う生産影響で一時的に増加しましたが、回復後は震災前のレベルに戻っています。

(*)2) トランジスタ1個当りの製造に伴うエネルギー使用量を示す
補正エネルギー単位数を使用

(2) PFCガス^{(*)3}排出削減対策

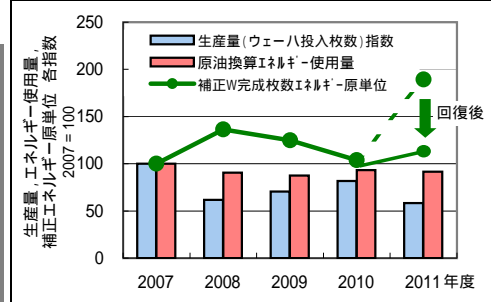
ウェーハのエッチングやCVD^{(*)4}装置反応室プラズマクリーニングの排気ガス中に残留するPFCガスを分解するために除害設備を設置して、大気中へのPFCガスの排出削減を図っています。

(*)3) PFC: Perfluorocompound パーフルオロ化合物。

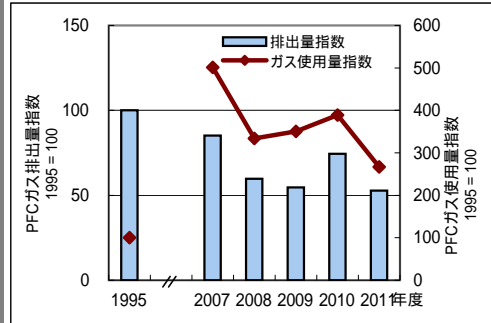
(半導体業界では CHF_3 、 CF_4 、 C_2F_6 、 C_4F_8 、 C_3F_8 、 SF_6 、 NF_3 が対象)

二酸化炭素の約5,000～20,000倍以上の温室効果がある温室効果ガス

(*)4) CVD: Chemical Vapor Deposition (化学的気相成長法)



生産量、エネルギー使用量 各指数の推移



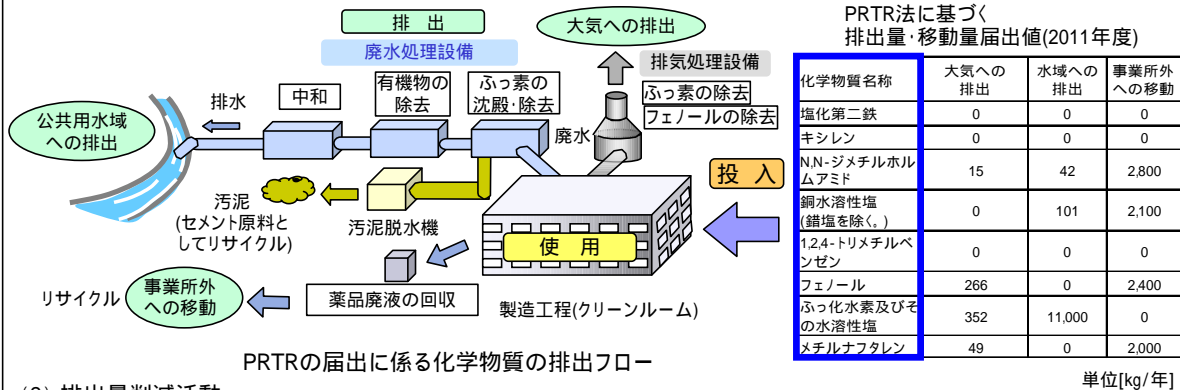
PFCガスの排出量と使用量の指数推移

化学物質管理

社内化学物質管理基準に基づいて、化学物質使用量の把握、使用量の削減、環境への排出量削減、PRTR^{(*)5}データの把握などを実施しています。 (*5) PRTR: Pollutant Release and Transfer Register (化学物質排出移動量届出制度)

(1) PRTR調査結果

PRTR法に基づく2011年度の排出量・移動量届出値を下表に示します。これらの化学物質の大気、水域への排出を確実に低減するため、排気処理設備または廃水処理設備により対象物質の除去を実施しており、法令に基づく基準値をもとに、さらに低い濃度の自主基準値を設けて排出物質の管理をしています。



PRTRの届出に係る化学物質の排出フロー

(2) 排出量削減活動

事業所から排出される化学物質による環境影響を低減するため様々な施策を展開しています。

使用量の削減	洗浄処理時間の短縮による薬液使用量低減 研磨処理で使用する薬液の流量低減
使用量の最適化	ホト工程で使用する薬液量の見直し
薬液ライフの延長	薬液の交換頻度を低減

その他様々な施策を検討、展開し、積極的な排出量削減活動を行っています。

(3) 化審法^{(*)6}第一種特定化学物質の使用廃止

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約の新たな規制対象となり、2010年4月から化審法第一種特定化学物質に指定されたPFOS(ヘキサフルオロオクタンスルホン酸)を含有する消火器の代替化を順次進めています。PFOS含有の消火器は2013年度までに全廃予定です。

(*)6) 正式名称は、「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」

環境負荷低減活動(続き)

水域, 大気への排出管理

(1) 排水水質の管理

事業所の生産活動に使用した後の廃水は廃水処理設備により凝集沈殿処理し、無害化した後、河川に排出しています。河川の水質への影響を出来るだけ減らすため、水質汚濁防止法排水基準値、茨城県条例排水基準値の順守はもとより、さらに環境に配慮した自主基準値を定めて排水の水質を管理しています。

(2) 大気への排出管理

事業所内ボイラーからの排ガスは大気汚染防止法排出基準値に対して、より環境に配慮した自主基準値を定めて管理しています。また、半導体チップ製造工程で使用する薬品と特殊高圧ガス等の排気ダクトには除害設備を設置し、これらの除害設備から排出されるガスの濃度に対しても自主基準値を定めて管理しています。

廃棄物削減

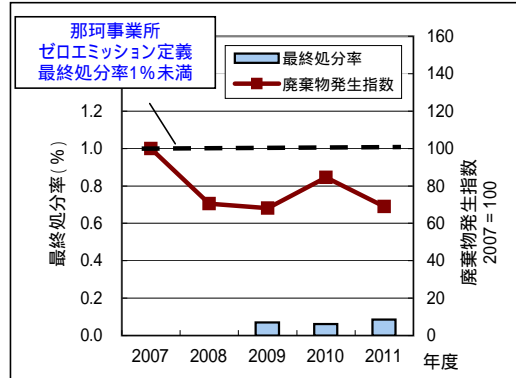
廃棄物の発生量抑制やリサイクル推進により、埋立処分場への排出となる最終処分量の削減に取り組んでいます。那珂事業所ではゼロエミッションを達成後も、ゼロエミッションの継続と、さらなるレベルの向上を目指した活動を展開しています。廃棄物削減の取り組みとして、廃水中のふっ素の沈殿・除去に伴う汚泥の発生削減及び含水率低減を行っています。2011年度は、震災の影響で復旧に伴う一時的な廃棄物が発生しましたが、年間の発生量は前年度を下回っています。

主なりサイクル活動

- ・ 脱水汚泥のセメント原料化
- ・ ろ過器ろ過材のリサイクル化
- ・ 廃油の燃料化
- ・ 廃プラスチックのRPF^(*)化, 他

(*) Refuse Paper & Plastic Fuel

(古紙及びプラスチックを原料とした固形化燃料)



廃棄物の最終処分量と発生量指数の推移^(*)

(*) 2009年度以降は、市の焼却後の埋立等を最終処分量として取り扱うようにしました。

緊急事態への準備と対応

事業所では多種の薬品、ガスを使用しています。地震等においてこれらの薬品、ガスが万一漏洩した場合の緊急事態に備えて、環境影響を最小限にするための対応訓練を定期的実施しています。



廃水処理薬品エリアからの薬品漏洩を想定した訓練の状況(2011年12月)

地域, 社会への貢献

事業所の正門前に広がるルネサスグラウンド(面積約2万3千m²)を地域の人々のスポーツやレクリエーションの場として開放しています。



ペットボトルのキャップを集めて途上国の子供たちにワクチンを送る「エコキャップ運動」に、2009年2月から参加しています。2012年3月までに累計で約84万個のエコキャップを回収しました。



社外表彰履歴

- 1999年 リサイクル推進協議会会長賞
- 2000年 リサイクル推進協議会会長賞
- 2002年 リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞
- 2002年 エネルギー管理優良工場(熱部門)関東経済産業局長表彰
- 2005年 エネルギー管理優良工場(電気部門)関東経済産業局長表彰
- 2005年 茨城県「リサイクル優良事業所」認定
- 2007年 茨城県「地球にやさしい企業(環境マネジメント部門)」表彰

事業所案内

ルネサス エレクトロニクス株式会社 那珂事業所
〒312-8504 茨城県ひたちなか市堀口751番地
電話(代表) 029-272-3111
JR常磐線勝田駅下車西口から徒歩15分



お問い合わせ先

この環境報告書に関するご意見, お問い合わせ先

環境安全センター 環境安全課
電話 029-272-3111 内線4236 FAX 029-354-0581
E-mail: hiroshi.ito.ur@renesas.com

ルネサス エレクトロニクスWEBサイトURL

<http://japan.renesas.com/index.jsp>

ルネサス エレクトロニクス環境への取り組みWEBサイトURL

<http://japan.renesas.com/comp/csr/eco/eco/index.jsp>

那珂事業所環境活動情報公開WEBサイトURL

<http://japan.renesas.com/comp/csr/eco/eco/office/naka/index.jsp>